

鳥取市湖南地区 吉岡温泉町自治会

～周りを巻き込んで地域を盛り上げ～

吉岡温泉町自治会紹介（令和 8 年7月現在）

■自治会加入世帯:181世帯

■自治会役員構成:会長(女性)、副会長、各区長、温泉部長、環境部長等の計12名

令和8年5月女性として初めて吉岡温泉町自治会長に就任した松浦聡子(まつうらさとこ)さんに、会長就任までの経緯や自治会での活動、今後の抱負などを伺いました。

自治会長になったきっかけ

これまで自治会運営の吉岡温泉会館「一ノ湯」の館長をしていて、10年自治会に携わってきた。自治会長は令和8年5月末の総会で承認されたところで、就任したばかり。自分が自治会長になったのも、7年前から前自治会長が若い人や女性を入れようとされていて、その流れができていたから。変えていってほしいという思いから前の自治会長さんが数年間で役員に何人か新たに引っ張ってきた。

役員の引き受け手があまりない中で、会長のお話をいただき、自分が引き受けた。

吉岡温泉女子会

昨年「吉岡温泉女子会」を作って花を植えたり、草を抜いたり、みそ作り、豚汁大会など地域の盛り上げを行っている。

地元で育った夫たちには地元の方とのつながりが多いが、女性同士は子どもが大きくなったらつながることが少なくなりがち。吉岡温泉女子会は女性同士がつながる会でもある。ここで女性に地域に関わってもらい、楽しいと思ってもらいたい。

またそれ以外の、中学生からおばあちゃん、おじいちゃん、大学生など自治会以外のその他の地域の人も吉岡を愛する人なら誰でも巻き込んで楽しくやるのが目的。

ここで自治会の活動に慣れてもらうと、女性が役員になるのもハードルが低くなるかもしれない。そう思っている。

女子会を作ったきっかけ

大雨が降ると吉岡温泉の川がよく氾濫する。以前氾濫した際も、日中は男性がほぼ仕事に出ていて女性しかいなかったが、女性同士のつながりがなくて、居る人でとなると右往左往で困ったことがあった。自分ともう一人の男性で土嚢を積む作業をしたが、このままでは大きな災害に備える事が出来ないと感じた。

いざという時に備えて女性の自警団を組まないと危ないと感じた。これが吉岡温泉女子会を作ろうと思ったきっかけになった。

交流人口拡大などの活動(会長就任前の自治会等での活動)

- 鳥取大学地域未来共創センターの活動で地域学部等との授業連携をやっている。一ノ湯を中心に地域学を学ぶ「湯あがりサロン」は JICA や鳥取大学乾燥地研究センターの方などとも連携して、外国の文化を吉岡温泉で学ぼうというもので、地域の活性化に取り組んでいる。一ノ湯の2階で毎月実施している。
- 鳥取市の事業「旅人人材」(地域の様々な課題解決を行う外部人材)の活用により、スキルのある人による吉岡の PR 動画の作成や、農業手伝いワーケーションを行っていただく事が進んでいる。
- 平成29年に策定されたまちづくり計画を、どうやって実現していくのかなどのアンケートを取った。結果、明かりで街を照らして魅力ある地域にするということになり、令和7年春から水木しげるロードや神戸市フラワーロードなどを手がけられた長町志穂先生にご協力いただき、ライトアップのワークショップを実施。照度を落として影を作らないようにし全体が明るく見えるように工夫した。
- こういった様々な活動を通して、経験値の高い人に出会う機会を得る事ができ、様々な協力をいただいたりするなど、大切な出会いとなり、それが形となりつつある。

自治会活動で変えていっているところ

- 一ノ湯の館長だったこともあり、もともと自治会には関係していたので、「変えたほうがいいと思うところは全部変えちゃえ。」ということで変えようとしている。
- 一つは、従前あった地域振興部を解散し、協議会としての活動へ変換するなど組織の変更をやっている。その取組の一つとして、新しく青少年育成委員会というのを作って、吉岡温泉女子会と子ども会などの交流会ができるように徐々に整えている。
- また、吉岡が持っている温泉の規模が大きく、例えば、温泉部は配湯管理、足湯出展(鳥取市木のまつり、花のまつり)などやるのが特殊な部分があるので、一ノ湯の運営も含め他地域の自治会より仕事が多い。ボランティア活動でやれる範囲内と営利の範囲内で事務局を設けるなどをし、切り分けしている。自治会に気軽に参加でき、次世代にとっても継続的な運営になるようにボランティアであることを減らしてきている。
- また、今年7月7日に吉岡温泉町自治会と鳥取市、鳥取市社会福祉協議会の3者で災害時の入浴支援に関する協定も結んだ。

女性が自治会のトップ、役員になることについて

- 女性がトップの場合、まだ現状では子育て等で抱えているものが多くなってしまうので、サポート部隊になってくれる家族や周りの人がいないと、女性進出の心のボーダーはなくならないと感じる。
- 力仕事は男性のサポートをもらいながら、男性も女性もいて、尊重しあうことが必要と考えている。吉岡温泉女子会などを通じて、自治会やその活動は楽しいと思ってもらえ、入りやすく楽しくできるようにしていきたい。いいバランスと組合せができればと感じている。それは、「男女平等」というより、それぞれのいい部分を尊重しうまく組み合わせていく、いろいろ参画していくということ。バランスよく補い合っている関係性が理想。
- 今、自分が自治会長になれるようになったのも、7年前に前の自治会長さんが若い人や女性

を入れようとされてきていたからで、男性が多い自治会でもトップの方がそういう考え方や方向を示せば変わっていくと思う。

自治会のトップとして気を付けている点、今後の抱負

- 自分としては、みんなの意見を聞いて丁寧に進めたいと考えている。よく「トップダウンで」とも言われるが、そこは意見を聞くように努めている。
- おじいちゃん、おばあちゃんの活躍の場をつくりたいと思った。学生さんにも入ってもらって、お互いに助け合って年代層を幅広くして様々な触れ合いや活動をしている。学生を入れることでおじいちゃん、おばあちゃんも孫感覚で元気が出る。軽い自治会運営にして、楽しんでやれるのが理想。そういった視点でやっていきたい。
- 若い人を早めに登用し地元のことを知ってもらうことが大事だとは思いますが、これまで培ってきた部分を伝承しながら今の時代に合った形に出来るよう、融合していけたらとても良いと思う。
- 役職にはついたが、将来の子ども達が千年の歴史を紡ぐことを楽しんで過ごせる地域を目指し、これまで携わってきたように、これからも楽しんで関われるようにできたらと感じている。